

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第44号

令和2年4月15日発行
発行/千葉県がんセンター

基本理念

私たちは、心と体にやさしく、希望の持てるがん医療を提供します。

巻頭言



千葉県がんセンター病院長就任のご挨拶

病院長 飯 笹 俊 彦

紙面をお借りして、ここにご挨拶を申し上げます。

2019年末に中国で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は全世界に拡散し、多くの尊い命を奪っております。我が国も首都圏で急速な感染拡大がみられ、医療者にも厳しい対応が求められております。このような時期に、伝統ある千葉県がんセンター病院長に就任し、多くの可能性のなか適切な判断をしていかなければならない責任の重さに身の引き締まる思いです。

千葉県がんセンターは設立後47年が過ぎ、本年10月開院を目指し地下1階、地上9階建ての新病院を建設中です。患者さん、ご家族には工事に伴い大変なご不便をお願いすることになり誠に心苦しく申し訳ありません。できる限り騒音、振動が少なくなるような工法を選択し、工事時間も迷惑にならないよう努力しておりますが、止むを得ず振動、騒音の発生することがあると思いますのでお声掛けください。

がん医療はどこでも等しくという流れとともに、今後ますます高度になり個々の患者さんごとに個別化し

ていくものと推測されます。千葉県がんセンターでは、医療安全に配慮しながら、あらゆる分野でがん患者の皆様へ、新しい医療技術を提供できるよう積極的に取り組んでおります。最近ではがんゲノム医療拠点病院を取得し、ロボット手術を2台体制としました。がんの治療は手術、薬物療法、放射線治療が3本柱とされています。体に負担の少ない手術を取り入れる一方で、手技的に難度の高い手術にも積極的に取り組んでいます。放射線治療では最新のIMRT(強度変調放射線治療)を提供することができます。がん薬物療法では分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など、様々な新薬が開発され、大きく変化しました。新病院では多くの医療機器が更新され、緩和医療体制も充実し、皆様により良いがん医療を提供できるようになっていくものと考えております。

千葉県のがん医療をリードする都道府県がん連携拠点病院として、皆様の声に耳を傾けながら方向性を見失うことなく適切に我々に与えられた使命を果たして行きたいと考えております。そして全職員一丸となって、患者さん中心のがん医療の実践に努力する所存でございますので、皆様の深いご理解と温かいご支援をお願い申し上げます。

臨床の現場から

腫瘍血液内科について

腫瘍血液内科 武内 正博

私

は2019年10月に着任しましたが、着任前から「腫瘍血液内科ってどんなことをしているところなのですか?」と質問されることがありました。「血液内科」であれば、白血病から貧血まで血液の疾患を診るところです、と答えますし、「腫瘍内科」であれば、がんの化学療法を主に行うところですが、「腫瘍血液内科」となると最初はどの説明すれば良いか悩みました。しかし現在では「化学療法のプロフェッショナルとして、他の診療科の先生方と協力しながら患者さんの治療にあたる部門です」と答えるようにしています。

当科では、白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄増殖性腫瘍（真性多血症や本態性血小板血症）といった血液の悪性疾患の治療に加え、乳がんや肉腫などについても他の診療科と協力しながら化学療法を行っています。

2020年度中にオープン予定の新病院では、一般病床

以外に無菌室が20床整備されます。現在、白血病などに対する同種造血幹細胞移植を再開するための準備を進めています。同種造血幹細胞移植を行うには、血縁者間であっても白血球の型であるHLAを合わせる必要があるため、兄弟間でも4分の1の確率でしかドナーになれませんし、非血縁者間では骨髄バンクに登録されている52万人のドナー候補の中で一人もHLA一致者がいないなどという事もあります。そこで、近年注目されている方法がHLA半合致移植です。親子であれば必ずHLAは半合致しますし、兄弟間でも2分の1の確率で半合致するため、移植できるチャンスが広がります。近年では従来の移植と比べてそんな色のない結果が出始めている方法もあるため、当院でも導入する予定です。

当科以外の診療科で行う化学療法についても、高度の白血球減少が予想される場合には無菌室での管理を行う予定で、より安全な環境で治療を行えるようになります。新病院のオープンで大きく環境が変わり、我々も大きく変わりますのでご期待ください。



アニマルセラピー活動について

2月12日（水）午後2時から、今年度最後のアニマルセラピーが開催されました。動物たちのパワーが82名の参加者に注がれ、一時、病気を忘れて楽しい時間を持っていただくことができました。

思えば、1990年にボランティア活動を導入し、2012年1月にアニマルセラピーを初めて開催しました。このときは犬3頭と患者さんによるふれあい活動が待合室で実施され、患者さんから感謝の言葉が異口同音に聞かれました。

現在は病室の中にも動物が入れるようになっており、動物と触れ合えることで患者さんやご家族に笑顔が出て、大変好評なのは勿論のこと、医療従事者も癒やされ、関係者の幸せホルモン（=オキシトシン）も上昇していると思われます。

同センターでアニマルセラピーが継続できているのは、病院の理念になかった活動であることが一番ですが、様々なボランティア活動を以前から受け入れており、その精神が根付いていることが、何よりも大きいと感じます。そして、日本動物病院協会に同じ県立病院での活動実績があったため、スムーズに受け入れられた、という3つの理由があります。

同病院だけでなく、様々な施設から感謝されている人と動物のふれあい活動ですが、日本動物病院協会の獣医師の先生方とボランティアの皆様の長年にわたるご尽力に改めて敬意を表したいと思えます。



看護の現場から

治験臨床試験推進部

院内CRC 吉原 智詠

病

院で働いている人の中に治験コーディネーター：CRC (Clinical Research Coordinator) という職種がありますが、皆さんCRCについてご存じでしょうか？

人を対象とする医学研究を臨床研究といいますが、がん診療を含む多くの医療の発展と確立のために不可欠なプロセスです。治験を含む臨床研究は、がん専門病院である当院のような施設が先導して行う必要があります。治験・臨床研究には、医師のほか、多くの専門家（看護師、薬剤師などの医療従事者、倫理審査委員会、治験審査委員会、統計家など）の関わりが必要ですが、データの信頼性確保や円滑な業務の遂行という観点から、近年ではCRCの必要性が高くなっています。

当院では、治験施設支援機関（SMO）から約20名のCRCが派遣され、多くの企業主導治験や臨床試験を支援しています。SMO派遣のCRCは、医療免許を持っていても院内での医療行為を行うことができず、採血や心電図などを各部署の医師や検査技師が対応していました。しかし治験の受託数と登録症例の増加に伴い、医療行為の業務量が増え、H29年度より院内CRCを配置して医療行為のサポートを開始しました。R2年3月現在は2名の看護師が配置されています。

私たちの業務は、各試験の規定に沿った医療業務のサポートの他、治験依頼者（多くは製薬会社）や医薬品開発業務受託機関（CRO）およびSMOと院内の他

部署（外来・病棟、検査、薬剤、事務など）との連携、治験・臨床試験の理解の助けになるよう院内へ普及活動を行っています。治験や臨床試験を行う上での法令・省令を学び、医師主導治験や臨床試験のコーディネーターも担っています。また、当院が昨年がんゲノム医療拠点病院に指定されたことから、エキスパートパネルの情報収集支援も行っております。


よりよい医薬品が1日でも早く使えるようになることは、患者さんのみならず、その治療に係る医療者全体の願いでもあります。特にがん医療の現場では、患者さん、ご家族からの期待も大きいと実感します。院内CRCとして、治験等への支援を通じて医療の発展に協力できるよう努めていきたいと思っております。

CRC業務について

CRC： 治験コーディネーター (Clinical Research Coordinator)

CRCの主な業務内容

- 治験責任医師等の指示のもとに治験に係る業務を支援
- 治験管理のための各種資料作成や補助、
- 関連各部署との調整、
- スタートアップミーティングの開催
- 被験者への対応（相談、服薬管理、助言など）
- 治験依頼者への対応（モニタリング、直接閲覧、監査など）など



治験・臨床試験・臨床研究とは？



臨床研究
人を対象として行われる医学研究
病気の原因解明、診断の改善を行う

臨床試験
薬剤や手術、放射線治療などを用いた新しい治療、またはそれらを組み合わせて行われる治療法などに対して、効果や安全性について確認するために行われる試験
試験行為を伴う研究

治験
新しい薬や新しい治療方法についての効果や安全性を確認して国の承認を得ることを目的に実施される臨床試験

第9回心と体総合支援センターシンポジウム開催報告

当院がん相談支援部門が毎年開催している、心と体総合支援センターが企画するシンポジウムを2月2日（日）に開催しました。今年は『がんをもっと知る』というテーマで、帝京大学医学部附属病院の渡邊清高氏にお話し頂きました。渡邊氏は患者会などで正しい情報の見極め方やその活用の仕方についてご講演されており、放送大学で講義も担当しておられます。

後半は来場者もアナライザーシステムを使用して参加するパネルディスカッションです。ここでのテーマは『どう探す？正しい情報』として講師に加え、胃がん経験者の方・がん専門相談員・コーディネーターに乳がん経験者の方を迎え、4名でディスカッションを行いました。あふれる情報をどう見極め・必要な時に患者と医療者で相談していくべきか、等討議しています。来年度は新病院体制になるため、名称は変わりますがこうした情報提供のイベントを継続していきます。皆様のご参加をお待ちしております。



地域連携室だより

心と体総合支援センターから 患者総合支援センターへ

地域連携室 高山 亘

千葉県がんセンターでは、心と体総合支援センターとしてさまざまな診療支援を行っております。地域連携室としては医療機関との連携業務と、患者さんに対する予約業務を担っています。予約を取るには、従来は代表電話から交換を通し予約担当に繋いでいました。昨年より地域連携室に予約専用回線を引き、交換を通さず直通電話で予約が取れる体制と致しました（図1）。導入当初は混乱もありましたが、患者さん、職員もだいたい慣れ、患者さんの利便性向上、病院の効率化は図られたと考えています。ただどうしても職員の配置の関係で、電話が繋がらない等ご迷惑をお掛けすることも有ると思います。日々改善に努めて参ります。

がん相談支援センターでは、就労支援、がんと仕事の両立支援、AYA世代支援など相談支援を推進しております。相談件数は月200件を越え、院外からの相談も多数受けています。

病院へのクレームにも対応し、ご意見対応委員会に

報告を上げています。地域統括相談支援センターでは千葉県より委託されたピアサポーター事業を展開しています。ピア・サポーターズサロン千葉も県内17病院で開催し、国からも高い評価を受けています。

令和2年4月1日より新病院を見据えて、心と体総合支援センターを患者総合支援センターに移行します。患者さんの診療支援を総合的に行う事を目的とし、初診時よりサポートを始め、また従来弱いとされていた入退院支援を強化します。4月より医療福祉相談員を増員し、薬剤師の配置も決まっています。新病院では外来フロント、緩和ケアセンターと場所を共有し、プライバシーにも配慮した作りとなっています。まずは現在の環境でのスタートとなりますが、できることから始め新病院の開院に向け準備していきたいと思っております。



クスリの名前

治験臨床研究センター診療部長 石井 浩

クスリの開発は、動物実験等に代表される前臨床試験から、ヒトに対する安全性有効性を確認する臨床試験を経て、薬事承認をとり製造販売が許可され市販されるまでであり、9～17年の歳月がかかります。クスリは、前臨床試験から早期の臨床試験には開発コードネーム（例：ONO-4538）、臨床試験時には一般名（例：ニボルマブ）、市販時には商品名（例：オプジーボ）と名前が変わります。出世魚のように順調に名前が変わり、商品名にたどり着ける確率は約2万7000分の1といわれています。

治験アップデート

治験臨床研究センターでは募集中の治験等の情報を提供しています。概要は以下のとおりですが、詳しくは当センターのホームページをご覧ください。

当センターでは以下の治験を実施しています

ホームページアドレス

<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/riyo/kanja/chiken/jissijyoukyou.html>



現在募集中の治験情報 令和2年3月19日現在

①乳がん	2件	④前立腺がん	5件	⑦食道がん	2件	⑩悪性リンパ腫	3件
②胃がん	4件	⑤膀胱がん	6件	⑧隣がん	1件	⑪頭頸部がん	1件
③大腸がん	1件	⑥腎細胞がん	1件	⑨胆道がん	2件		

がんゲノム医療におけるエキスパートパネル

千葉県がんセンター遺伝子診断部 横井 左奈

がん治療の経過で再発・転移し、標準的な治療では治癒困難となったがん患者さんに、治験や適応外薬も含めて有効な治療薬を探すのが「がんゲノム医療」です。「遺伝子パネル検査」によって一度に100種類以上の遺伝子変化を調べますが、遺伝子変化の医学的解釈は全自動では出てきません。この検査は最も治療を急ぐがん患者さんのために、我が国が世界に先駆けて保険診療として導入しました。しかし早く導入することを優先した結果、検査としては半分未完成のため、主治医がひとりで検査結果に基づき治療を行うは困難です。そこで、結果の医学的解釈を補い検査を完成させるのが「エキスパートパネル」という多職種の専門家集団による検討会です。

当センターのエキスパートパネルの流れをご紹介します。まず主治医が患者さんのこれまでの治療歴を、病理医ががん組織の特徴を提示します。次に情報解析の専門家とゲノム医療の専門家が遺伝子パネル検査の品質を評価し、病的意義のある遺伝子変化を選定し適合する薬剤リストを作成します。がん薬物療法を専門とする医師は、患者さんのがんの効果があると思われる薬剤を絞り込み、その薬剤を用いた臨床試験情報を収集します。薬剤師は臨床試験の実施機関に問い合わせ、その患者さんが参加可能を確認します。もう一人の見えないメンバーがAI(人工知能)です。検査結果に対して有効な薬剤と臨床試験を探した報告書を提出してくれますので、こちらも活用します。一方で、遺伝子変化の中には生まれつきの体質を示すものも含まれます。そこで、遺伝医学を専門とする医師と遺伝カウンセラーが検査結果について遺伝性の体質かどうかを評価します。また、この専門的な検査に関する疑問に答え、結果の理解や新しい治療への不安に寄り添えるように看護師も内容を把握します。

このようにがんゲノム医療において行われた遺伝子パネル検査の結果をもとに、診療科の枠を超えて集まった専門家たちがONE TEAMとなってその患者さんに適した診療を提案するのがエキスパートパネルです。



ふれあい広場 クリスマス会



西3階病棟 糸久 美樹

昨年十二月、がんセンターでは一足早いクリスマス会を開催しました。私はがんセンターに勤め三年目で、三回目の経験となりました。これまでの二回は出演するだけでしたが、今年は同期とともに司会をさせて頂くことになり、上手く出来るかと二人で不安を抱えながら当日を迎えたのを覚えています。司会をさせて頂くことになり、新たな気持ちで参加することができました。毎年、クリスマス会には沢山の患者さんが参加して下さいます。今年司会を担当し、患者さんたちの笑顔を間近に見て、同じ時間を最初から最後まで共有し、冬の寒さも吹き飛ばす温かさで参加して下さっていると感じました。今年も、患者さんの「頑張れ！」の声援や「楽しかったです」など沢山の感想を頂きました。私はこれまで、クリスマス会は患者さんに楽しんでもらうことを考えていましたが、実際には、私達がんセンターのスタッフが患者さん達の笑顔から元気をもらっているのだと感じました。

がんセンターではクリスマス会だけでなく、夏祭りといった催しもあります。患者さんの笑顔を間近に見られる機会があり、患者さんやご家族と一緒に季節を感じながら楽しんでいる姿を見て、喜びを感じる事ができ、また来年も頑張ろうと思えるひとつの私の原動力となっています。



初診担当医表

*当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
*初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

2020年4月1日より

診療科	月	火	水	木	金
肝胆脾外科	千葉 聡	高山 亘	高山 巨 石毛 文隆	柳橋 浩男	千葉 聡 有光 秀仁
食道・胃腸外科	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 外岡 亨	鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 早田 浩明	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 郡司 久	星野 敬久 郡司 久
消化器内科	傳田 忠道 鈴木 拓人 喜多 絵美里 三梨 桂子	傳田 忠道 須藤 研太郎 天沼 裕介 杉田 統	傳田 忠道 喜多 絵美里 中村 和貴 三梨 桂子 石垣 飛鳥	傳田 忠道 北川 善康 鈴木 拓人 辻本 彰子 三梨 桂子	中村 和貴 須藤 研太郎 天沼 裕介 北川 善康
呼吸器外科	岩田 剛和		飯笹 俊彦 岩田 剛和 松井由紀子		岩田 剛和 松井由紀子
呼吸器内科	芦沼 宏典 水野 里子	新行内雅斗 吉田 泰司 芦沼 宏典		新行内雅斗 吉田 泰司 水野 里子	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 味八木 寿子 園田 至人	山本 尚人 味八木 寿子 羽山 晶子	中村 力也 羽山 晶子 園田 至人	山本 尚人 味八木 寿子 羽山 晶子	中村 力也 味八木 寿子 園田 至人
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	鈴鹿 清美	田中 尚武 鈴鹿 清美 井尻 美輪 海老沢 桂子 後藤 裕磨	田中 尚武	田中 尚武 鈴鹿 清美 井尻 美輪 海老沢 桂子 糸井 瑞江 後藤 裕磨	井尻 美輪 海老沢 桂子
泌尿器科	小丸 淳 篠原 正尚	裴 祥存	宋本 尚俊 石橋 武大	小林 将行 篠原 正尚	深沢 賢 石橋 武大
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 佐藤 昌靖 丸山 聡	武内 正博 辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明 佐藤 昌靖	武内 正博 辻村 秀樹	熊谷 匡也 辻村 秀樹 丸山 聡
脳神経外科	井内 俊彦 堺田 司	(担当医)	井内 俊彦	(担当医)	堺田 司
頭頸科	(担当医)	佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興		佐々木慶太 佐々原 剛 櫻井 利興	
整形外科	米本 司 塚西 敏則 木下 英幸	石井 猛 鴨田 博人 木下 英幸 萩原 洋子		石井 猛 鴨田 博人	米本 司 塚西 敏則 木下 英幸 萩原 洋子
緩和医療科	坂下 美彦	藤川 文子	坂下 美彦	藤川 文子	坂下 美彦
核医学診療部		小川 和行	久山 順平	久山 順平	小川 和行

電話
予約

●初診・再診予約(患者予約)

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

043-263-4071

●予約変更(患者予約)

月曜日～金曜日 午後1時～午後4時

043-263-4074

●医療機関からの直接予約

月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

043-264-5633



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車
小湊バス: 千葉県がんセンター行乗車・終点千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

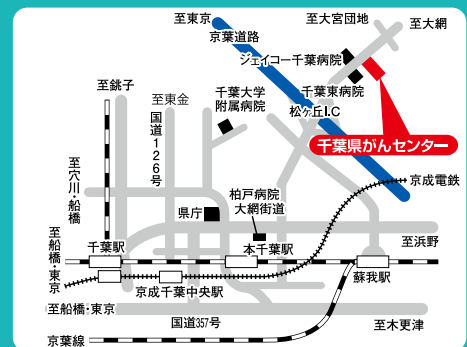
千葉中央バス: 千葉駅、蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<https://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>